

**ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
(社会的な要請に対応できる看護師の養成)
取組の概要と推進委員会からの主なコメント**

		テーマ	1
代 表 校 名 (連 携 校 名)	名古屋市立大学		
事 業 名	医療的ケア児を支える学校看護師エンパワメントプログラム		
事 業 責 任 者	看護学研究科 研究科長・明石 恵子		
事 業 の 概 要			
本事業は、名古屋市教育委員会等と協働し、学校等において医療的ケアを行う看護職（以下、学校看護師）を対象とした段階的プログラムを実施することで、学校看護師を充足し、専門的看護実践能力を高め、主体的に学校看護師として組織的課題に取組み、指導的役割を担う学校看護師を育成するものである。具体的には、①看護職に対し、リスキングレベルを「エントリー」「ベーシック」「アドバンスド」の3段階に分け、潜在看護師から、指導的役割を担うことを期待される現役学校看護師までを対象としたプログラムを、参加者の知識・経験に応じてきめ細かく実施する。②学部教育では、既設必修科目の講義演習と重症心身障害児者施設実習に加え、新たに学校等での医療的ケア児支援（講義・演習）、学校看護師配置学校等での看護実習を行うなど、中長期的ビジョンの下、受講者ニーズにそった多様なプログラムを擁し、学校看護師のすそ野拡大を目指す。			
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
○現状分析を踏まえた事業計画であり、学外の関連機関との連携体制も構築されている。 ○リスキング教育の3コースが具体的に示され、学部教育の多職種連携教育の意義も説明されていた。 ○育成の順序性が筋道よく語られ、地域の各資源と連携した育成が期待できる。 ○これまでの実績をもとに具体化された事業案である。 ○全学を挙げて本事業を実施する体制が整備されている。 ○本プログラムの運営を担う委員会、評価を担う外部評価委員会が具体的に計画されていることから実効性は高く評価できる。 ○名古屋市を超えて他の自治体への展開について、愛知県の特徴を踏まえて明確に説明されており、実現性が高い。 ●学部教育の中で小児看護学などの単位は非常に少なく、卒後も経験が得られにくい。多様である小児の疾患への理解や日常生活のケアにどう対応するか、学部教育段階で小児看護学の専門性を高めるためにどのようなことが必要か、どのように発展させていくのかを検討し、看護師としての責務や役割を十分果たせるような教育内容の充実を更に図っていただきたい。 ●看護学生を対象とした実習について、多職種の養成課程との連携は重要であるが、看護師として担う役割の獲得に重点を置いたものとするのが求められる。 ●新設科目の「学校等における医療的ケア児支援」の多職種連携教育からその後の「学校等看護実習」へのつながりや発展性が示されると、本教育プログラムの強みとなり得る。 ●学校看護師は主治医・学校教職員・保護者との連携の中で働くということが重要になるため、実際の学校現場での子どもとの関わりが含まれる内容とすることが望ましい。学校の現場での実際の演習等が含まれるとより良いのではないかと。特別支援学校をはじめとする小中高等学校が、何を目的に、どのような仕事をしていこうとしているかのご理解を深め、意欲をもって学校で働く看護師を養成することを期待する。 ●事業の成果普及で言及のある、保育士等への適用については、業の異なる職種に対してどのような点で有効であるのかを明確にすることが求められる。			